

元ラジャダムナン・スタジアム・ライト級王者の目に、新王者の戦いぶりはどのように映ったのか？



採点表

	ジャッジ 山下 敏	ジャッジ 少 白電	ジャッジ 山中 敏雄
1R	10:10	10:9	10:9
2R	10:6	10:6	10:6
3R	10:10	10:10	10:9
4R	10:9	10:10	10:10
5R	10:10	10:9	10:9
TOTAL	50:45	50:44	50:43

全日本フェザー級王座決定試合  
佐久間晋哉 (判) 杉木 敏  
3-0  
佐久間が第17代王者となる。



▲佐久間は前蹴りで中に入ろうとする杉木を止めていた。これで杉木はパワーのある左ミドルもパンチも封じられてしまった。



▲「左右のフックからのアッパーは相手の視界に入らないため、タイ人選手との試合でも有効だ」と藤原会長。杉木戦でも2回、ワンツールの後のアッパーが杉木のアゴ先を捕らえ、ダウンへの布石となった。

# 左右のアッパーは強い武器になる スタミナさええつければ面白い選手だ

（3・23vs立嶋戦）下がるときにまっすぐ下がるんだね。試合でフットワークが自然に出るように、もっと稽古をしないと、アッパーが右でも左でも打てるのは面白い。

それと立嶋選手の右のハイキックを警戒してか、間合いを取りすぎていて、タイ人選手だったら、上半身のスウェーだけでかわしてすぐ攻撃するでしょう。間合いの取り方が普通の選手より大きいから、接近戦のときにかなり前に踏み込まなければいけないから時間をロスしてしまう。もう少し前に出た間合いであればもっと早く倒せただろう。

相手の蹴りに対して、あまりにも下がりが過ぎているね。1発を狙っているでしょう。単発に終わらずに連打できるようにすれば、どんな相手でも倒せられないからね。

（4回の佐久間のダウンは）左を中

途半端に打とうとした瞬間に右ストレートをもらってしまった。相手を畳み込むときのラッシュが速い。もっと手数を出していれば4回にもう一度ダウンをとれただろう。あの3倍ぐらい早くしないと、この時点でスタミナを消耗してしまっている。

佐久間選手はガードが低いんだね。ここでパンチが当たっているのに下がっちゃうでしょう。もっと続けたいと、パンチを当てた後にローを蹴って、ハイキックを蹴ればきれいに止めを刺せたと思う。

また、5回戦で何試合もしていないでしょう。見てると3回戦のスタミナだから、間合いを広くして、立嶋が前に出ると下がるとスタミナが切れていく。打ち合いの蹴り合いをしてスタミナが切れるのは分かるけど、お互いにスタミナが切れている状態でラッキーでパンチが当たったような感じだからね。それと、間合いをもっと詰めた方がいいと思う。相手の攻撃をもらいやすくなるけど、自分の攻撃も当たるからね。佐久間がもっと強いチャンピオンになるためには、その辺りもクリアしなければいけない課題ではないかと思う。

そうすれば試合で見せ場のあるワーッと盛り上がる試合ができるから、チャンピオンならそういうことも考えていかなければ、これからはいろいろなタイプの選手と闘うことになる。



も早く上がっているし、詰めるべきところではちゃんと詰めている。佐久間はどちらかというと見ているタイプの選手だね。この試合では極端に下がることがなくなった。ロープを下がることなく、すぐサイドを背負いそうになったら、すぐサイドステップでロープから離れる動きがすごくいい。ロープはできるだけ背負わない方がいいのだから、立嶋戦から目に見えて成長している。

ワンツールのアッパーは武器になるね。左右のフックからのアッパーは意外と見えないんだよね。その得意のアッパーを活かすためにも、もっともっと蹴りを研いで、スピードとパワーをつけられれば、相手の気持ちを上下に揺さ振って自分が思ったとおりのアッパーが打てると思う。2回序盤に連打したけど、あのと

きも蹴りからパンチ、パンチから蹴りにならないでいければ、倒せたはずだ。得意のパンチを磨くのではなく、他の技をレベルアップさせた方が結果的には倒しやすくなると思う。

タイではヒザの距離でもパンチを打ち合うからね。そういう距離でもパンチが打てるようにならないと、佐久間選手は離れたところから踏み込んでワンツール、アッパーというスタイルだけだと、タイ人選手が相手になったときにそのスタイルで戦わせてくれるかどうか。それから、接近戦になってタイ人選手が首をつかみにきたときにどんな形でアッパーを打てばいいか、パンチの連打から止めのアッパーをどんなふうに行うかはいいか、練習して身につけていくしかないでしょう。

あとはスタミナだね。タイで試合をするにしても技がどうのこうの上り、1にも2にもスタミナだから、スタミナがなければ通用しない。自分のリズムを崩さないで試合をするのが一番いいわけだけど、実際の試合ではそうもいかないからね。自分のリズムを崩されても戦えるぐらいのスタミナを付けておかないと、スタミナがないと、蹴りやパンチをパンパンもらって焦るから手も足も出ないうちに終わってしまうことがあるかもしれないからね。

遠い間合いからでもパンチが伸びていたから、早く連打できるようにすればもっと戦いやすくなる。パンチをもっと活かせるように、他の技術のレベルも上げていけばかなり面白い選手になるんじゃないかな。

## KICK OVER-V

全日本キックボクシング連盟  
4月29日 後楽園ホール



参考記録

	ジャッジ 三井 綾	ジャッジ 山本 敏	ジャッジ 白電 少
1R	9:10	9:10	9:10
2R	10:9	10:9	10:9

三井綾に何が起こった？  
スイス王者にKO勝利も笑顔なし  
控室には館長の怒声が響いた……

「体調は良かった」という三井だが、勝負が決まった瞬間、グランシャーはまだロープから半身を出したままだ。

試合前、名取館長に三井の調子を訊かれたところ、「悪いよ」とひとこと、悪気や怪我、無理な契約体面ではないにもかかわらず、最初の計量は両目もオバーした。人一倍口癖を叩き込まれている不動組3人娘らしくない失態だ。

試合は初回終了直後にグランシャーの右ハイをもらい、リング中央からロープ際まで足もつれてフラフラする有様。だが三井は2回から左ミドルで自分の流れをつくり、3回には前相撲が得意なグランシャーにヒザ取りとパンチを浴びせてダウンを奪う。最後は戦意喪失気味のグランシャーにパンチを連打して叩き込むと、レフェリーは試合をストップ。だが勝者を控室で待ち受けていたのは、館長からの怒声だった。観客からの指示に感銘されて指示通りの動きをしなかったこと、そして身体が絞られていなくなったことに現れる精神の強みに反響が響く。

「だから、しよせん女子キック」と言われるんだ、男の3倍やれ、怒りの予先は三井だけにとどまらず、誰もなくフェザー級転向第1戦を迎える顔谷にも足踏。顔谷も精神的にノッていないのか、女子キックの未来に暗鬱が立ち籠めた。



▲風を受け右ヒザを故障したスレマンは両手にリングにしがみついた。



▲4セコンドに抑えられ、リングを1周する間もスレマンは両手にリングにしがみついた。

参考記録

	ジャッジ 前田 憲作	ジャッジ 山中 敏雄	ジャッジ サミ 中村
1R	10:10	10:10	10:10

## 前田憲作 タイスタイルへの回帰

リング上はまさに「前田ワールド」だった。コールとともに、客席から投げ入れられる紙テープ、スレマンのパンチをブロックする、左ミドル、右ロー、左ミドルで右ヒザを負傷したスレマンがマットに倒れると、前田は活字なカッターでリングを一周して締め括った。

「（二週に練習した）須藤さんのおかげでティフェンス力が上がりました。攻撃は30%しか出ていないけど、一時期はパンチに走らうとも思ったけど、ムエタイスタイルは捨てられたい。相手の攻撃を完封して左ミドルや直相撲で攻める形が得意です」と復讐する際の「パンチを磨く」という言葉は過去の迷い。リベンジしたい相手として挙げた「立嶋、小野寺」にも興味はない。

「立嶋はあんまり状態だし、そういう気持ちで挑みました。小野寺選手は相手したらやります。リベンジの考えは？ 考えたことはありません。やるなら遠慮なくやってきた立嶋とやりたいです」

結局、前田は以前の「前田」に戻った。その実力も以前のレベルまで戻っているのかどうかは、この日の「30%の前田」では判断のしようがない。

（前田 憲作）